

目次

〔現代の横須賀市〕

第一編 政治・行政

概観

第一章 市政と市民

第一節 人口の移り変わり

一 世帯数と人口

二 産業別の人口

三 地区別の人口

昭和三〇年と六〇年の比較／8

町(丁目)別の世帯数と人口／9

第二節 市域の変遷

一 埋立てによる拡張

2
4
4
4
4
8
6
4
4
4
14
14

火力発電所の久里浜進出／14	相つぐ大規模埋立て／14	安浦地区の埋立事業／19
市域の現況／20		
二 横浜市との境界問題……………		21
市境界問題の発生／21	両市の主張と県知事の斡旋／21	新調整案と問題の解決／22
第三節 選挙の執行……………		25
一 選挙制度の移り変わり……………		25
二 各種選挙の経過……………		25
市長選挙／25	市議会議員選挙／31	県の選挙／31
		国の選挙／34
第四節 市政の歩み……………		36
一 新しい横須賀の門出……………		36
本市更生の基本方針／36	財政の確立進む／36	
二 教育と産業を軸に―長野市長の時代①―……………		36
話し合い市政の登場／36	教育行政の新展開／38	追浜地区の産業開発／39
久里浜工業地帯の開発／40	市総合開発計画方針の策定／40	
三 近代都市への基盤づくり―長野市長の時代②―……………		40
本市初の“三選市長”に／40	市制六〇周年を迎える／41	
都市基本構想の制定／41	空母ミッドウェイの母港化問題／42	
四 「人間都市横須賀」を目指して―横山市長の時代①―……………		44
市民のための市政を／44	四本の柱を重点目標に／45	防災都市づくりの一步／45
ごみ対策からクリーンよこすか運動へ／46	「人間都市横須賀」の建設、創造を／46	

五	市民とともに文化の創造を―横山市長の時代②―……………	48
	都市基本構想の改訂／48 「文化の元年」を宣言／49	
	「活力とにぎわいのある都市」を目指して／50 基地問題と三施設の返還／51	
	市制施行八〇周年を祝う／52	
六	市長を補佐した歴代の助役と収入役……………	53
	歴代助役／53 歴代収入役／53	
第五節 市議会の活動……………		
一	昭和三〇年代……………	54
	原子力研究所の誘致運動／54 基地交付金獲得運動の成果／55	
	横浜市との境界紛争に対する県知事斡旋案の受諾／55	
二	昭和四〇年代……………	56
	市議会庁舎の新築／56 米原子力艦船の横須賀寄港と安全確保／57	
	米軍基地内の初視察／57 「交通安全都市」宣言／57	
	米空母の母港化反対／58 異常な物価高騰の抑制／59 集中豪雨による災害復旧助成／59	
三	昭和五〇年代……………	60
	地方議会議員の半数改選制の導入撤回／60 公害防止対策／60 「健康都市」宣言／60	
	米空母ミッドウェイ核兵器搭載の有無／61 市議会議員定数減少条例の制定／61	
四	委員会の変遷……………	62
	常任委員会／62 特別委員会／63	
五	各期の市議會議員……………	64

第三期市議会議員／64	第四期市議会議員／64	第五期市議会議員／64
第六期市議会議員／65	第七期市議会議員／66	第八期市議会議員／66
第九期市議会議員／66	第一〇期市議会議員／67	第一一期市議会議員／67
六 歴代の市議会議長と副議長……………	歴代議長／68	歴代副議長／69
第六節 市民参加の市政……………	70	70
一 広報委員会の活動……………	70	70
広報委員会の誕生／70	委員会の日常活動／70	市民の会開催／71
広報委員会の解散／72		
二 町内会・自治会の活動……………	73	73
町内会の復活／74	身近な活動から文化活動まで／74	町内会活動に補助／75
三 広報・広聴活動……………	76	76
お知らせの時代へ／77	「市民の声」を聞く時代へ／80	
四 市民参加の市政……………	82	82
施設見学会／82	市政への提言制度／83	まちづくりへの市民参加／83
五 広がる市民運動……………	84	84
横須賀市ごみ対策市民委員会の発足／84	「クリーンよこすか運動」／84	
あいさつ運動、オアシス運動／86		
第七節 市の機構と庁舎の変遷……………	87	87
一 市の機構……………	87	87

	事務機構の変遷／87	職員数の推移／93
二 市 庁 舎	本庁舎と分庁舎／95	都市経営センターとしての市庁舎の建設／96
三 支所から行政センターへ	市役所支所の変遷／98	支所所管区域の変更／98
		行政センターの開設／99
第八節 行政委員会と附属機関の設置		
一 執行機関の多元化		
二 各種行政委員会	教育委員会／100	選挙管理委員会／101
	農業委員会／102	固定資産評価審査委員会／103
		監査委員／101
		公平委員会／102
三 附属機関		
第九節 広域行政の動き		
第一〇節 友好の輪を広げる姉妹都市		
一 コーパスクリステイ市		
二 プレスト市		
三 フリマントル市		
四 ジリンガム市		
五 姉妹港と国内の都市友好		
第一一節 市制施行の記念事業		

一	市制施行から七五周年まで……………	113
	市制施行五〇周年／113	
	市制施行六〇周年／116	
	市制施行七〇周年／117	
	市制施行七五周年と「文化の元年」／117	
二	市制施行八〇周年を迎えて……………	118
第二章	まちづくり計画……………	124
第一節	開発的視野に立った基本方針……………	124
	〈横須賀市総合開発計画方針〉……………	124
第二節	三層計画の完成……………	127
	一 総合開発基本計画……………	127
	二 都市基本構想……………	130
	三 実施計画……………	131
	第一次五か年計画／131	
	第二次五か年計画／132	
第三節	二一世紀に向かつての新しいまちづくりの計画……………	136
	一 都市基本構想……………	136
	二 基本計画……………	137
	三 実施計画……………	141
	第三次五か年計画／141	
	第四次五か年計画／143	
第三章	財 政……………	146

第一節	市財政の推移	146
一	市財政の現状	146
二	市財政の変遷	147
一	一般会計・特別会計・企業会計 / 147	
二	本市財政の動向 / 147	
三	六〇年度決算額の状況(一般会計) / 154	
四	目的別決算額の状況 / 155	
五	市債(市の長期借入金)の増高 / 155	
六	基金の状況 / 155	
三	県下各都市の決算額の比較	155
第二節	市税収入等の変遷	160
第三節	市有財産の概要	162
第四章	防衛施設	165
第一節	米軍基地の概要	165
一	基地の推移	165
一	提供財産への切り替え / 165	
二	地上戦闘部隊の撤退 / 165	
三	特需会社の閉鎖 / 168	
四	米軍施設・区域調整計画 / 168	
五	整理統合計画とその一部中止 / 172	
六	空母ミッドウェイの母港化 / 174	
七	横浜海浜住宅の移転 / 176	
八	三施設の返還 / 178	
二	基地の現況	180
第二節	米軍基地の返還	183
一	横須賀市の基本姿勢	183
二	施設の返還	183

第三節 米軍基地をめぐる社会問題……………185

一 核への疑惑……………185

ラロック証言／185 クレーター発言／186 ライシャワー発言／187

トマホークの配備／187

二 原子力艦船の寄港……………188

三 市財政と基地……………189

基地交付金／190 ドル調整交付金／190 防衛施設周辺整備法／191

四 市民との交流……………192

基地の開放／192 消防相互援助協定の締結／192 ホームビジット制度の運用／193

第四節 自衛隊の概要……………194

一 海上自衛隊……………194

二 陸上自衛隊……………194

三 航空自衛隊……………195

四 防衛大学校……………196

五 組織と主な施設……………197

六 集約統合を要望中の施設……………200

七 市民との交流……………200

災害時の救援活動／200 遠航部隊／201 施設の開放と派遣協力／201

第二編 産業・経済

概観

第一章 平和産業港湾都市の建設

第一節 旧軍港市転換法と立市の基盤整備

一 旧軍用財産の概要

二 平和産業港湾都市への転換

横須賀市更生委員会の設置 / 206 横須賀市更生対策要項 / 206

横須賀旧軍港転換準備委員会の発足 / 207 旧軍港市転換法の制定 / 210

横須賀市転換事業計画書の決定 / 211

三 転換事業の推移

法施行一〇年の歩み / 212 法施行二〇年の歩み / 214

法施行三〇年の歩み / 216 現在までの歩みと今後 / 221

四 旧軍港市転換法をめぐる話題

旧軍用財産の三分割処理方式問題 / 223 軍転審議会の廃止問題と形骸化 / 224

第二節 港湾施設の整備

一 在来港の整備

商港としての長浦港 / 226 多目的機能をもつ久里浜港 / 228

新港に含まれる小川・安浦港／230	
二 横須賀新港の開設	231
新港第一埠頭の完成／231	
新港埠頭会社の発足／232	
初入港は西ドイツの自動車運搬船／234	
三 貿易状況の推移	235
急速な貨物量の増加／235	
新港開港後の貿易実績／237	
貿易振興への模索／237	
四 内外海運の概況	238
第二章 経済の動きと産業の発展	239
第一節 市内経済の概況	239
一 経済の変動と市内産業の動向	239
経済復興の基盤づくり／239	
産業立地の開発と発展／239	
事業所の推移／241	
二 産業構造の変化	242
業種別に見た産業構造／242	
第一次産業の状況／242	
第二次産業の状況／244	
第三次産業の状況／244	
三 市の商工業施策	244
四 経済活動を支える機関	246
商工会議所／246	
その他の機関／247	
第二節 農業の推移	248
一 消えゆく水田	248
経営耕地面積の減少／248	
米の減反政策／249	
農業振興地域の指定／249	

二	変様する農業経営……………	250
	農業経営の近代化／250	
	観光農園の出現／252	
	環境に合った主要作物／252	
	農産物の改良と生産性向上への努力／254	
	農水産まつり／255	
三	衰退する畜産業……………	255
	都市化と畜産／255	
	市と畜場／256	
	畜産まつり／256	
	第三節 水産業の推移……………	257
一	食生活の多様化と水産業……………	257
二	遠洋漁業の盛衰……………	258
	捕鯨とマグロ漁業／258	
	水産加工業の推移／260	
三	漁港の整備……………	260
	長井地区／260	
	大楠地区／260	
	東部地区／262	
四	とる漁業から育てる漁業へ……………	263
	養殖漁業／263	
	マダイの放流／264	
	これからの栽培漁業／264	
五	生業とレジャー……………	265
	後継者問題／265	
	遊漁者と沿岸漁業の問題／265	
	第四節 工・鉱業の推移……………	266
一	工業の概観……………	266
	旧軍用地への工場進出／266	
	工場数の推移／268	
	従業者数の推移／269	
	製造品出荷額等の推移／269	
二	自動車工業の進展……………	271

	あらまし／271	車種の多様化と技術革新／272
三	造船工業の変遷……………	273
	あらまし／273	ガントリークレーン／274 「日本丸」建造／274
四	その他の工業の進展……………	275
	電気機械器具／275	食料品／275 一般機械器具、金属製品／275
	家具、化学、ゴム／275	非鉄金属／275
五	建設業の進展……………	276
六	鉱業（採石業）の消長……………	277
第五節	商業の発展……………	278
一	商業活動の推移……………	278
	戦後復興期の状況／278	商店街の整備が進んだ三〇年代／278 ビル化が進んだ四〇年代／280
	大型店の進出などに揺れた五〇年代／281	近代化を目指して動きはじめた六〇年代／282
二	業態別にみた商業……………	282
	あらまし／282	卸売業の状況／283 小売業の状況／284 大型店その他の状況／284
三	市内商業の特色と商店街……………	286
	商業立地／286	商店街の分布／286 地域別商店街の状況／286
第六節	金融事情の推移……………	291
一	市内金融機関の動き……………	291
二	庶民金融と消費者ローン……………	292
第七節	運輸・交通の推移……………	294

一	主要な道路	294
二	旅客の輸送	297
一	幹線道路の形成 / 294	
二	道路の整備 / 294	
三	横浜横須賀道路の建設 / 296	
四	国鉄横須賀線と京浜急行線 / 297	
五	乗客数の推移 / 298	
六	バス・タクシー輸送の概況 / 299	
三	貨物の輸送	300
一	貨車からトラックへ / 300	
二	海上による輸送	300
一	定期航路の開設と消長 / 300	
二	東京湾フェリー / 301	
第八節	通信の発達	302
一	郵便事業	302
一	郵便物の取扱量 / 302	
二	郵便局の増設と局舎の拡張 / 302	
二	電報電話事業	303
一	通話自動化の変遷 / 303	
二	加入電話の増加と電報利用の減少 / 304	
三	情報技術の革新と電電事業の民営化 / 304	
四	電気通信研究施設の誘致 / 305	
第九節	労働事情の推移	306
一	雇用問題	306
一	労働力状態の変化 / 306	
二	労働運動の展開 / 306	
二	高齢者とパートタイマー	308
一	高齢者雇用 / 308	
二	内職とパートタイマー / 309	
三	労働施策	310

第三編 社会

概観

第一章 開発と都市化

第一節 宅地開発の推移

一 大規模開発の背景

国の方針 / 314 首都圏整備法と市の開発計画 / 314

二 大規模開発の概要

大規模開発の始まり / 315 開発規模の大型化と法規制 / 316 開発許可制度の創設 / 317

開発の鎮静化 / 318

三 住宅事情の推移

三〇年代以前 / 321 三〇年代 / 322 四〇年代 / 322 五〇年代 / 323

四 土地価格の高騰

五 マンション住宅の出現

第二節 市街地の整備

一 土地の区画整理

久里浜臨港地帯土地区画整理事業 / 329 公郷根岸土地区画整理事業 / 329

..... 312

..... 314

..... 314

..... 314

..... 315

..... 321

..... 321

..... 326

..... 327

..... 329

..... 329

	鴨居土地区画整理事業／331	大矢部佐原土地区画整理事業／331
	下佐原土地区画整理事業／331	衣笠駅南土地区画整理事業／332
二	市街地の再開発……………	334
	下町地区再開発事業／334	追浜駅前再開発事業／336
	衣笠駅前再開発事業計画／337	浦賀駅前再開発事業計画／337
	久里浜駅前再開発事業／337	
第三節	町名の変遷……………	339
一	新町名誕生の推移……………	339
二	町界町名地番の整理……………	339
三	住居表示制度の変遷……………	340
	新しい住居表示制度／340	住居表示整理の経過／340
	埋立てによる新町名／341	
	宅地造成による開発地と新町名／343	二四年以降の整理で消滅した町／343
四	現在の町名……………	344
第四節	自然破壊と環境アセスメント……………	348
一	開発による自然環境の変化……………	348
	新しい町の誕生／348	変わらない谷戸の町／349
二	環境アセスメント……………	349
三	自然環境の維持と行政……………	350
	緑地保全区域の指定／350	住みよいまちづくりのために／351
第五節	都市景観……………	352
一	自然景観の変化……………	352

山林と丘陵地／352	海岸線／352	
二 都市景観の変化……………		353
第二章 生活環境の向上……………		355
第一節 生活環境の変化……………		355
一 公共事業による生活環境の改善……………		355
上下水道の整備／355	生活道路の整備／355	公害苦情の推移／356
二 市民による生活環境の改善……………		356
私道の整備／357	資源となる廃品回収の実施／357	建築協定／357
第二節 緑地の保護と公園の整備……………		358
一 公園整備事業の推進……………		358
進む公園建設／359	地域と一体となった公園づくり／360	
二 県・市の主な公園……………		360
県の公園／360	市の公園／361	
三 ユニークな公園……………		363
根岸交通公園／363	宇東川緑道／363	自然につつまれた緑地／363
水と光と音の三笠公園／365	しょうぶ園／366	チビッコ広場／366
四 緑化行政と花いっぱい運動……………		367
市の木、市の花の制定／367	花と木の配布／367	
第三節 清掃事業の進展……………		368

一	清掃事業の移り変わり……………	368
二	ごみの収集と処分……………	368
収集方法の能率化／368	焼却施設の改造／369	粗大ごみ（ごみの資源化）／370
埋立地問題／370	一般廃棄物と産業廃棄物／371	
三	ごみ対策市民委員会の発足と活動……………	372
委員会が発足するまで／372	有価物回収運動の盛り上がり／373	
四	新清掃工場の建設……………	373
建設までの経過／373	新清掃工場のあらまし／374	行政サービスの充実／377
五	し尿の収集と処分……………	377
姿を消した農村還元／377	制約される海洋投棄／378	浄化槽の管理と公衆便所／378
第四節	上水道の整備……………	379
一	給水量の増大と施設の拡充……………	379
現況／379	悪条件下の第四回、第五回の両拡張工事／381	第六回拡張事業と城山ダム／386
第七回拡張事業と相模川の高度利用／391	第八回拡張事業／393	配水施設整備事業／397
二	災害と給水対策……………	398
関東大震災による被害と復旧／398	災害対策の準備／398	震災対策事業／399
三	神奈川県内広域水道企業団と本市……………	401
神奈川県内広域水道企業団の設立／401	企業団の創設事業となった酒匂川総合開発事業／401	
宮ヶ瀬ダムの建設と本市への影響／403		
第五節	下水道の整備……………	406

一	下水道計画	406							
下水道とは	406	本市の下水道計画	406						
二	下水道施設の建設	408							
創設事業と第一次下水道事業	408	第二次下水道事業	409	第三次下水道事業	409				
都市下水道事業その他	409								
三	下水道の普及率と事業費	413							
高い普及率への努力	413	事業費の問題	414						
四	河川の整備	414							
二三水系三七河川	414	河川の整備	416						
第六節	電気・ガス供給の推移	419							
一	電気の供給	419							
電気供給の推移	419	火力発電所の建設	420						
二	ガスの供給	422							
需要が増加する都市ガス	422	プロパンガスの普及	423						
第七節	公害の防止	424							
一	公害防止行政の歩み	424							
二	公害の種類と防止策	424							
大気汚染	424	水質汚濁	424	騒音・振動	424	悪臭	424	公害防止の現況	425
第三章	福祉と保健	427							

第一節	社会福祉の向上	427	
一	社会福祉行政の歩み	427	
社会福祉諸法の制定	427	社会福祉の転機	428
福祉五か年計画の策定	428	福祉五か年計画の策定	428
市福祉機関の変遷	428	生活保護	429
老人福祉	430	老人福祉	430
心身障害者(児)福祉	439	児童・母子などの福祉	437
心身障害者(児)福祉	439		
二	社会福祉団体などの活動	442	
横須賀市社会福祉協議会	442	民生委員と地区社会福祉協議会の活動	444
「しあわせ号」の運行	444	田浦地区における福祉活動	445
高等学校生徒による「はまゆうキャンプ」	445	地域サービス事業の実施	446
三	国民健康保険と国民年金事業の歩み	447	
医療保険制度の始まり	447	本市国民健康保険の発足	447
国民健康保険の三〇年間	448	現在の国民健康保険	450
国民年金発足して満二六年	451	国民年金発足して満二六年	451
国民健康保険と国民年金事業の歩み	447		
第二節	保健衛生医療の充実	453	
一	健康づくり	453	
治療予防から健康づくりへ	453	「健康都市」宣言の決議	453
健康づくり施策	453	健康づくり施策	453
保健所等行政組織の整備	454	伝染病予防の浸透	454
結核予防対策	456	結核予防対策	456
性病予防対策	457	母子保健対策	457
成人保健対策	458	成人保健対策	458
二	救急医療対策の確立	459	
救急医療行政の前夜・その情勢	459	市救急医療センターの設置	461
病院群(二次医療施設)の形成	462	救急医療システムの整備と課題	462
救急医療センターの設置	461		
救急医療システムの整備と課題	462		

三	医療施設の増加と変化……………	462
医療施設の充実／462	市立医療施設の整備／464	血液供給事業への協力／464
病床の増加と病床種別の変化／464	診療体制の高度化／465	看護婦の養成／467
病院の火災その他の経過／467		
四	旧市立病院の火災と市民病院の誕生……………	467
病院の焼失と再建是非の模索／467	再建計画の発足／469	成人病センターの完成／470
高度機能をもつ病院の実現へ／472		
五	食品衛生と環境衛生……………	472
食品衛生／472	環境衛生／474	火葬場・墓地の管理と放射能測定／475
第四章	防災と治安……………	476
第一節	災害の発生と防災対策の推移……………	476
一	災害の発生……………	476
火災の状況／476	集中豪雨による災害／477	地すべりによる災害／480
二	災害に強いまちづくり……………	481
三	消防と自主防災組織……………	481
消防力の充実強化／481	市民消防の活動／484	自主防災組織の活動／485
四	地震と崖地対策……………	487
地震対策事業／487	崖地対策事業／492	その他の防災対策／493
第二節	事件・事故の発生と防止……………	494

一	市内三警察署の沿革	494	
二	犯罪の発生状況	495	
三	主な事件・事故	496	
四	事件・事故の防止対策	496	
第三節	交通安全の対策	498	
一	激増する車と交通戦争	498	
モータリゼーションの波	498	交通警察の強化	498
二	交通安全運動と安全施設	500	
交通安全に対する市の役割	500	「交通安全都市」へ向けて	501
交通公園、スクールゾーンと交通安全施設	502	自動車駐車場と自転車駐車場	504
三	交通災害に対する救済	506	
交通災害共済制度	506	交通遺児奨学金制度	507
第四節	海上の安全	508	
一	海上保安体制の整備	508	
横須賀海上保安部	508	東京湾海上交通センター	509
観音崎灯台	510		
二	海難事故の防止	510	
第五章	市民生活	512	
第一節	暮らし向きの変化	512	
一	家庭生活の移り変わり	512	

家族のかかえる問題／512	物価と家計／512	変化する食・衣・住／514
家庭電化製品などの普及／521		
二 消費者運動の流れ……………	消費者運動の始まり／524	消費者運動の広がり／525
		消費者運動の発展／526
三 風俗習慣の移り変わり……………	変化する風俗習慣／528	大衆化したレジャー／529
		流行歌にみる横須賀／532
第二節 市民相談と行政……………	533	533
一 市民生活と市民相談……………	533	533
	市民相談の体制／534	市民相談の利用状況／534
二 時代を反映する市民相談……………	537	537
三 市民意識の変化……………	539	539
	横須賀に永住意思をもつか／539	横須賀のどんなところに魅力を感じるか／540
第三節 同和問題……………	542	542
	同和教育／543	同和行政／543
第四節 まつりと観光……………	545	545
一 まつりと郷土意識……………	545	545
二 主な市民のまつり……………	545	545
	衣笠さくらまつり／545	観音崎公園まつり／546
		横須賀みなとまつり／547
	みこしパレード／548	

	三 郷土を知る観光……………	549
	観光行事のいろいろ／549	
	市が主催の記念式典／550	
	横須賀風物百選／553	
	第四編 教育・文化	
	概 観 ……………	562
	第一章 教育の充実 ……………	564
	第一節 学校教育の充実 ……………	564
	一 学校教育の概観……………	564
	教育関係法規制定の流れ／564	
	教育内容の変遷／565	
	教育内容の多様化と施設設備の充実／566	
	教育研究の歩み／567	
	教育界をめぐる出来事／568	
	二 幼児教育……………	570
	幼児教育の推移／570	
	幼稚園の設置状況／572	
	三 義務教育……………	572
	校舎の増改築と新設校の開校／572	
	教育予算の推移／574	
	父母負担の軽減化／575	
	学校給食の歩み／575	
	学校保健の歩み／576	
	四 特殊教育……………	577
	特殊教育の推移と充実／577	
	主な特殊教育の施設／577	
	五 高等学校教育……………	579

	高校進学率の増大／579	市立高校の統合整備／579
	県立高校の増設と私立高校の整備発展／580	
六	大学教育……………	582
	横須賀における大学誘致の経過／582	日本女子衛生短大・神奈川歯科大の開設／582
七	専修・各種学校の制度と歩み……………	583
	専修学校制度の新設／583	本市にある専修学校と各種学校／583
第二節	社会教育の進展……………	584
一	社会教育の歩み……………	584
二	成人教育による生涯学習……………	585
	成人学校／585	市民大学／586
	高齡者生きがい促進事業／587	視聴覚教育／588
	社会教育関係団体及び各種委員会／588	
三	社会教育施設の整備……………	589
	図書館／589	博物館／591
		万代会館／593
四	公民館活動の歩み……………	593
第三節	家庭教育と青少年育成の推進……………	594
一	家庭教育の移り変わり……………	594
	教育となり組の活躍／594	母親クラブの充実／594
	明るい家庭づくり／595	家庭教育学級の成果／595
二	青少年育成の推進……………	596
	青少年育成団体／596	青少年問題協議会など／598
		青少年の研修／600

	青少年の施設／601	青少年相談センター／602
第四節	体育の振興	603
一	学校体育	603
	学校体育行政の歩み／603	運動会の移り変わり／604
		各種体育大会の開催／605
二	社会体育	607
	社会体育行政の歩み／607	レクリエーションの普及／609
	中止された大会／614	各種競技大会の開催／611
三	体育施設の整備	614
第二章	文化活動と振興	616
第一節	市民の文化活動	616
一	主な文化団体の組織と活動	616
	横須賀文化協会／616	各界の活動／618
二	待たれた文化会館の建設	631
	建設の経緯／631	機能的にみた特色／632
	ニーズに応じた改修工事／633	はまゆう会館の建設／634
		利用の状況／632
第二節	文化行政の展開	635
一	市民文化の振興	635
	市民会館から文化会館へ／635	中央地区から市内全域へ／637
	組曲「横須賀」の誕生など／638	

二 「人間都市横須賀」の建設、創造と文化の時代	639
三 「文化の元年」の宣言	640
文化行政の体制づくり／640	
文化への市民参加／641	
四 市民文化財団の設立	642
文化財団設立協議会の設置／642	
文化財団の設立／642	
文化財団の活動／643	
五 文化振興条例の成立	644
成立の経緯／644	
文化振興条例の制定と意義／645	
文化振興審議会の設置／646	
六 地域文化振興懇話会の活動	646
第三節 伝統的郷土芸能の復活	647
一 伝承されていく郷土芸能	647
浦賀の虎踊り／647	
飴屋踊り／648	
とっぴきびー踊り／649	
各地区の祭ばやし／650	
二 民俗芸能大会の歩み	653
第四節 宗教法人の変遷	656
一 宗教法人の概観	656
二 神道系法人	657
三 仏教系法人	659
四 キリスト教系・諸教法人	662
第三章 文化財の保護	665

第一節	文化財保護の経過……………	665
一	文化財保護行政の歩み……………	665
	文化財保護法の制定／665	
	文化財保護の現状と課題／665	
二	文化財の指定……………	667
	有形文化財／667	
	無形文化財と民俗文化財／668	
	史跡／668	
	名勝・天然記念物／669	
三	文化財保護と啓発活動……………	670
	文化財講演会／670	
	民俗芸能大会／670	
	市民史跡めぐり／670	
四	文化財の総合調査……………	670
	調査の実施／670	
	調査の結果／670	
五	調査報告書とガイドブック……………	671
	調査報告書の発行／671	
	文化財ガイドブックの発行／671	
第二節	埋蔵文化財の保護……………	674
一	埋蔵文化財保護の歩み……………	674
	三〇年代から四〇年代にかけて／674	
	文化財保護法の改正と文化係の設置／674	
	埋蔵文化財の史跡指定／675	
二	遺跡の消滅と記録保存……………	676
	農地天地返しによる発掘調査／676	
	学校建設に伴う発掘調査／676	
	久里浜倉庫地区（神明町）の発掘調査／677	
	防災工事に伴う発掘調査／678	
	高速道路の建設に伴う発掘調査／678	
	第二次宅地造成ブームと発掘調査／678	
	長井住宅地区の埋蔵文化財確認調査／679	

第五編 明日の横須賀

21世紀をひらく都市づくり～……………685

横須賀市海上都市構想／686 横須賀市中心市街地整備計画／688

湘南国際村構想／690 海と緑の一万坪プログラムナード計画／691

その他の地域整備開発計画／694

あとがき……………697

横須賀市史編さん関係者名簿……………698

主な参考資料……………700